

Satellite Square

「NEC C&C ユーザーフォーラム& iEXPO2019」 「日立 Social Innovation Forum 2019 Tokyo」

神谷 直亮

今月は、NEC グループが開催した「C&C ユーザーフォーラム& iEXPO2019」と日立グループが行った「Social Innovation Forum 2019 Tokyo」についてレポートする。

「NEC C&C ユーザーフォーラム& iEXPO2019」

「Digital Inclusion ~デジタルのチカラで、ひとりひとりが輝く社会へ~」をテーマに掲げたNECグループの恒例のイベントは、11月7日、8日に東京国際フォーラムで開催された。今年の展示会場は、「社会・産業・生活を変革する先進デジタルプラットフォーム」「NEC Value Chain Innovation」「NEC Safer Cities」「未来体験ゾーン」の4つのステージで構成され非常に見応えがあった。

「社会・産業・生活を変革する先進デジタルプラットフォーム」のステージでは、「宙(そら)への挑戦」「VR空間の活用」「5G」が関心を呼んでいた。

「宙(そら)への挑戦」のコーナーでは、「はやぶさ2」「ASNARO-2」「Bepi Colombo」の3つのプロジェクトが紹介された。

2014年12月に打ち上げられた「はやぶ

さ2」は、2018年6月に小惑星「リュウグウ」に到着した。その後、衝突装置を分離して人口クレーターにタッチダウンすることに成功している。説明員によれば、「今年11月か12月にリュウグウを離れ、2020年中に地球に帰還する予定」という。会場には、「はやぶさ2」の実物大モデルが展示され、クレーターの臨場感のある様子も示されていた。

「ASNARO-2」は、高性能小型Xバンドレーダー衛星である。2018年1月に打ち上げられ、衛星で撮影したたくさんの貴重な画像がすでに提供されている。

「Bepi Colombo」は、ESA(欧州宇宙機関)の「Mercury Planetary Orbiter」と日本のJAXAの「Mercury Magnetospheric Orbiter」で構成される国際水星探査プロジェクトで、共に2018年10月に打ち上げられている。説明員によれば、「水星にたどり着くための膨大なエネルギーを補うために、9回の惑星スイングバイを行い7年後の2025年末に水星の周回軌道に投入できる予定」とのことであった。

「VR空間の活用」のコーナーでは、最新のHTC製「VIVE Focus One」ヘッドセットを装着して、遠隔地間で空間を共有したり現場を観察したりするデモが行われた。促され

るままに体験を試みたら、遠隔地で講演する社長のアバターが出現、その後スーパーマーケットの店内を動画で見ることができた。担当者は、「組織や拠点を超え、仮想空間を活用する横断チームによる新事業創出プロジェクトに利用して欲しい」と語っていた。「5G」のコーナーでは、建設機械の自律運転システムの実演が行われた。システムの要は、デブスカメラ、3Dレーザースキャナー、低遅延性に優れた5Gネットワーク、NECの適応予測制御技術である。

「NEC Value Chain Innovation」のステージでは、「AIを活用する倉庫の要員リソースの最適化」「需給最適化による食品ロスの削減」「IoTプラットフォームとAIソリューション」などのプレゼンテーションが行われていた。「Value Chain Innovation」の底流には、AIソリューションを導入していこうという戦略が働いているように見受けられた。

「NEC Safer Cities」のステージでは、「スマート街路灯」「データの利活用によるまちづくり」「人とサービスをつなぐ街のコンシエルジュ」「道路劣化AI診断」など、社会で人々が豊かに暮らすための数々の提案を行っていた。会場に設置された「スマート街路灯」の構成は、5Gアンテナ、LED照明、小型カメラ、スピーカー、縦長のディスプレイであった。

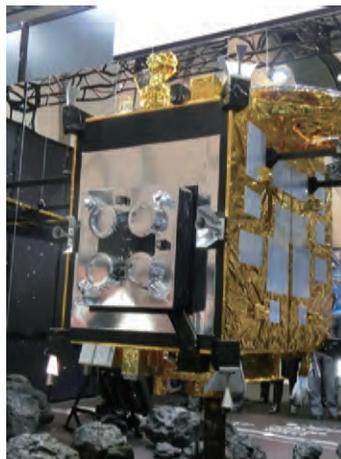


写真1 NECは、「はやぶさ2」の実物大モデルを展示して来場者の注目を集めた。



写真2 VRを活用して組織や拠点を超える横断チームを創出することで新規事業を発掘する体験が人気を呼んだ。



写真3 「5G」のコーナーでは、建設機械の自律運転システムの実演が行われた。

「未来体験ゾーン」では、「できたらすごい」をキャッチフレーズに掲げて、「虹彩認証」のデモと、「空飛ぶクルマ」「量子コンピュータ」の展示が行われた。

NECは、すでに顔認証を実現して

